

# 茨城ハング会報

2003年7月発行

## <セーフティフライトを心がけましょう>

これからの時期、暑さで気持ちが緩みがちになります。ハングチェックの励行、長袖・長ズボンでのフライトスタイル、日射病・熱射病防止対策等、各自セーフティフライトに心がけましょう。またフライト前の軽いストレッチ等お勧めです。

## 7月役員会報告

開催日時	2003年7月5日(土)17:00～18:30			
場所	ランディングカフェ			
出席者	蘭部 重巳	仁平 洋之	桂 敏之	大沢 豊
	岩間 雅彦	井上 潔	羽賀 勝洋	藤沢 勇一
	鈴木 由路	呉屋 紀彰 (書記)		

### 1. 定例報告事項

#### (1) エリアテスト報告

##### 新入会員

会員番号	氏名(ふりがな)	検定員
756	松崎 宏和(まつざき ひろあき)	藤沢
757	依田 秀穂(よだ ひでほ)	桂
758	川西 博人(かわにし ひると)	藤沢
759	鈴木 悠太(すずき ゆうた)	藤沢
760	柴田 達矢(しばた たつや)	藤沢
761	大井 清司(おおい きよし)	藤沢
762	中村 圭吾(なかむら けいご)	藤沢

##### 再入会員

会員番号	氏名(ふりがな)
5	保呂田 恒行(ほろたつねゆき)
92	関根 清(せきね きよし)
266	成井 季佐江(なるい きさえ)
435	石川 智之(いしかわ ともゆき)

茨城ハング会員数 202名(2003年7月現在)

(2) エリア管理作業報告(桂)

作業日時	作業内容
5月14日	LD排水ポンプガス5リットル給油
5月21日	エリア見回り LD排水ポンプ故障 新ポンプ取付 LD排水ポンプガス4リットル給油 LD吹流し2本交換
6月5日	LD排水ポンプガス5リットル給油
6月11日	LD排水ポンプガス6リットル給油
6月23日	LDトラクター草刈第2回 土手草刈 7月3日迄
6月26日	水路ネット部分除草剤撒き LD排水ポンプガス6リットル給油
6月30日	LD排水ポンプホース修理

(3) 会計状況報告

重要な報告は特になし。

2. 報告・審議事項

(1) ランディング場の土手について

田んぼに水が入ったり梅雨時期で雨量が増したりしている為、ランディング場近辺の土手が緩くなっている。仁平副会長、大沢会員、秋山会員にて対応を考える事とする。

会員の皆様は、ランディング時に十分注意すると共に、地盤の緩いところは極力避けて通るようお願いいたします。また危険個所を見つけたら随時役員に申し出てください。

(2) テイクオフマット敷設について(藤沢役員)

ゴムマットの発注を行った。マットが届き次第敷設作業に取り掛かる予定。

敷設は基本的に会員のボランティアによって行います。日程は未定ですが当日居合わせた皆様は、お手数ですが敷設作業のご協力をお願いします。

(3) 丸山山頂風車建設について(大沢)

建設について特に進展のある話は受けていない。八郷町としては反対意見が挙がっている。

(4) セーフティスタイルの確立について

昨今、一部で安全意識に対する緩みが見受けられる。暑い時期に差し掛かり半袖・短パン・サンダルでのフライトをする者が増えてきた。

ランディング時、万が一何か事故が起きた際の怪我を軽減、防止する為にも長袖・長ズボン・靴での基本的なスタイルでフライトに臨むよう徹底してください。

(5) 救急法講習会結果報告(井上)

今年も救急法講習会が行われた。今年は茨城ハングからの参加者がたったの2人と大変寂しい人数であった。ここ最近、幸運なことに茨城ハングで大きな事故は起こっていないが、その反面安全意識に対する考え方が低下しているのではないだろうか？1度の講習で全てが身につくわけではないが、今まで参加した経験のない会員は極力参加することを願う。また知識として知っていてもいざという時にはなかなか対応できないものである。年に1度くらいはこういった機会を活用してもらい

たい。会ではフライトに影響が少ないように毎年、どちらかというコンディションの渋い梅雨時に講習会を催すようお願いしている。次回は会報での案内以外にも、各ショップ・スクールから積極的にアナウンスして頂く事を考える。

他の時期でも開催は可能なのでご意見・要望等ありましたら事務局までご連絡ください。

(6) 緊急パラシュートリパックについて(秋山)

昨年は救急法講習会に併せてリパックの講習会も行った。今年は諸事情により行っていないが、決してリパックを行わなくてよいわけではない。安全意識高揚のための記事を桂役員が執筆することになった。下記「パラシュートの話」参照

各自定期的にリパックを行うことを心がけるようお願いいたします。

(7) オータムフライトについて

今年も11月にオータムフライトの開催を予定している。加藤会計より実行委員の立候補があり、満場一致でお願いすることとした。

次回役員会：2002年9月7日(日)  
ランディングカフェにて(16:30開始)



## パラシュートの話

2003年7月  
会員番号64 桂 敏之

板敷エリアは20年以上にわたって高い安全実績がありますが、パイロット本人や周囲の人々の生活に重大な影響をもたらす事故も、いくつか発生しました。特に3年前のフックアウトによる会員パイロットの死亡事故は、安全意識を徹底することの大切さを痛感させる出来事でした。

その後、テイクオフでのハングチェックや呼びかけがルール化によって励行され、フックアウトを防ぐ上で効果を上げていますが、よく見てみると、他にも危険な要素はいくらでもあるのです。

### 皆さんのパラシュートはいざという時、ちゃんと機能するのでしょうか？

天候の急変や空中衝突、操縦ミスや組み立てミスなどで機体が操縦不能になるという、一番困った時の最後の命綱がハーネスに装備されている緊急パラシュートです。

しかし、パラシュート本体が健全な製品であっても、ちゃんと使えるとは限りません。緊急時にちゃんと機能するためには、

ハーネスへの取り付け  
使い方が確認されているか  
正しくメンテナンスされているか

といった「システムとしての健全性」が確保されている必要があります。

### ハーネスへの取り付けをチェックしていますか？

まず普段のフライト活動についてです。機体やハーネスはテイクオフでちゃんとプレフライトチェックを行えば、かなりしっかりチェックすることが出来ます。その時にパラシュートもチェックすることを忘れないでください。もちろん、パラシュートコンテナの中までチェックするわけにはいきませんが、以下の点はチェックできます。

- (1) パラシュートを引き出すハンドル(トグルあるいはグリップとも呼ばれています)がパラシュートコンテナの中に隠れていないか？フライトグローブを装着した手でちゃんと握れる状態にあるか？
- (2) 逆にハンドルがとび出し過ぎていてバリオやコントロールバー、ワイヤーなどに引っ掛ったりしないか？誤開傘を防ぐためのセーフティーロックシステムははずれていないか？
- (3) パラシュートコンテナは正しく閉じているか？ハーネスのラインが引っ掛ったりしていないか？
- (4) パラシュートコンテナからカラビナに伸びているブライダルラインに損傷はないか？また、その装着に異常はないか？
- (5) カラビナについているブライダルラインは、ゴムバンドなどでカラビナの下側に来るように固定されているか？(開傘時にカラビナが上下方向ではなく、強度の劣る前後方向の形で、機体側のスイングラインとパラシュートブライダルラインの間で引っ張らることにならないようにしたいです。)
- (6) さらに、ハングチェックでちゃんとぶら下った状態でも、問題が無いことを確認して下さい。どこかが突っ張ったり、ゆるんでたり、はがれていなければ良いでしょう。

### それよりも、本当にいざという時、パラシュートを投げられるのでしょうか？

テイクオフでは出来ませんが、シミュレータでぶら下ってヘルメットやフライトグローブを付けて、パラシュートを投げてみて下さい。まあ、本当に投げるのは難しいでしょうが、投げる寸前まではやってみて下さい。

これは、新しいハーネスを使用する時は必ず、そしてパラシュートをリパックする時にも良い機会なので是非、やるべきです。

実際にパラシュートをパラシュートコンテナから完全に引き出そうとすると、意外と、問題点がいくつもあるものです。

- (1) フルフェイスヘルメットでは、チンガードでハンドルが見えないことがあります。
- (2) すぐにしっかりとハンドルを握る事が出来ますか？
- (3) 旧タイプのベルクロ式のコンテナフラップでは、引き出すのに特に苦勞します。
- (4) 空中での事故で右手が使えなくなることもあるかも知れません。

( 5 ) そもそもパラシュート本体はリパックされていても、ブライダルラインの取り回しが悪いと、開傘の妨げになる危険性があります。

以上、このシミュレーションをやることでそういった問題点を認識し、解決することが出来るのです。

本番で、パラシュートをコンテナから引き出す事が出来なければ、悪夢です。

**そして、本当にパラシュートは開いてくれるのでしょうか？**

パラグライダーは実際に湖上で開傘トレーニングをやることもできますが、湖面で回収するのが難しいハングライダーでは、それもなかなか出来ません。過去の事故の記録では、メンテナンスミスによるパラシュートの欠陥のために開傘しなかったという例はなさそうです。もっとも、世界中合わせてもハングライダーで開傘に至った事故の報告例は1000件に満たないでしょう。それに、リパックなどのメンテナンス時にひどい状態のパラシュートを発見したという話も聞きます。

いずれにせよ、ショップなど信頼できる経験者によってリパックしてもらい、ハーネスに装着された状態でシステムとして機能するように心がけるべきでしょう。

**では、リパックは何ヶ月に一度やるべきでしょうか？**

いろいろな話を聞くと、リパック後2ヶ月以内のパラシュートは開傘が早く、1年以上経ったパラシュートはわりと調子悪いようです。理想は2ヶ月、悪くても1年以内というところでしょうか。

また、普段の心がけに次第で、パラシュート本体がダメージを受けるので注意してください。例えば、地面にパラシュートコンテナが直接触れないように注意。湿気・アリ・泥や砂はパラシュートの大敵です。夏の草むらはヤバイですね。かと言って、紫外線も大敵です。日影に置きましょう。

なお、ヨーロッパでは10年経ったパラシュートは交換を義務とするルールがあるようです。メンテナンスが良くても10年経ったパラシュートは劣化が進み、フリーフォールに近い状態からの急激な開傘時の強度に問題が生じるとの事です。

今回はパラシュートの話でしたが、楽しいフライト活動を続けるために、「重大事故は実際に起こりうるものだ。だからこそ、少しでも安全性を高めていく努力が大切だ。そのためには、常にパイロット一人一人が、起こりうる危険について意識する事が必要だ。」ということ、忘れないで下さい。